

いにしえ

古に感謝し、 次の時代を創造する

広報 たかやま

市制施行80周年記念特別版

高山市制施行80周年記念式典プログラム

期 日 11月1日(火)
場 所 市民文化会館大ホール(昭和町1)

【第1部】

市表彰式 午前10時～正午

- ・名誉市民、芸術文化顕彰、地域振興顕彰、自治功労ほか
 - ・市制施行80周年記念映像の上映ほか
- ※被表彰者の方は、広報たかやま11月1日号でご紹介させていただきます。

会場ロビーでは、「市制80年の歴史を刻む」と題し、市民の皆様からお寄せいただいた写真や、市が保有する写真から「飛騨人の暮らし」をテーマにした写真約130枚を展示します。

【第2部】

「未来の高山」ふるさとを語る

- 午後2時～3時30分
- ・市内の小学5年生全員による合唱
- ・優秀作品(作文、ポスター、歌詞)の表彰
- ・次世代を担う子どもたちの主張、市長・教育長との対談

問合せ 秘書課 ☎35-3130

未来への第一歩



本年、11月1日、高山市は、市制施行80周年を迎えます。

今日に至るまでの長きにわたり、先人の皆様と現在ご活躍の市民の皆様が大変な努力を積み重ねられ、まちを築き上げられたご功績に、心より敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

式典当日は、「過去と今を称える表彰式」を第一部として執り行い、「未来を創造する子どもたちの主張」を第二部として実施いたしますので、ぜひご参観いただければ幸いに存じます。

この記念すべき日は、これまでの歩みを振り返り感謝するとともに、未来への第一歩を踏み出す日であります。今後、未来永劫にわたり光り輝く高山市を市民の皆様と創造していくことをあらためて決意したいと考えております。

高山市長 國島 芳明

次の世代につなげるために



昭和11年に高山市が誕生し、本年11月1日に80周年という高山市の歴史にとって大変意義深い日を迎え、記念式典が盛大に開催されるにあたり、議会を代表して、心よりお祝いを申し上げます。

高山市が飛騨地域の中核都市として、また伝統的文化都市、国際観光都市として着実に進展してきたことは、ひとえに先人のたゆまざる努力が実を結んだものであり、あらためて市民の皆様のご理解とご協力に、心から感謝を申し上げます。

議会といたしましても、市民の皆様と一緒に記念式典をお祝いし、この日を契機に次の世代にしっかりとつなげていくため、活力とやさしさのあるまちづくりに全力で取り組む所存であります。

高山市議会議長 水門 義昭

式典第2部「未来の高山」ふるさとを語る」で受賞者のみなさんにお渡しする表彰盾は、飛騨高山高等学校書道部のみなさんが、受賞される児童生徒を想い、丁寧に書き上げていただきました。



〈メッセージ〉
飛騨春慶へ題字筆耕という貴重な経験ができ嬉しく思います。大変緊張しましたが、最後まで気持ちを込めて書き上げました。
これから飛騨を担っていく小中学生の皆さん、今までの歴史を大切に、未来を築いていけるよう頑張ってください!!

飛騨高山高等学校
書道部部長 細江静里菜さん



市制施行80周年記念特別事業 第2回飛騨高山文化芸術祭こだま〜れ2016 芸能披露公演

庄川「村芝居」人情時代劇 上州鳥居の一里塚



市制施行80周年を記念し、地域で古くから守り継がれている伝統文化のひとつである庄川地域の「村芝居」のうち、庄川神社の芝居(人情時代劇)を特別公演します。

日時 11月1日(火)午後7時開演(開場は30分前)
場所 市民文化会館小ホール(昭和町1)

※入場無料、事前申込不要です。直接ご来場ください。

問合せ 飛騨高山文化芸術祭実行委員会 ☎35-3155

高山市の歌

作詞 辰巳 利郎
作曲 長尾 量平

- 1 しろがねの 雪のアルプス 真向いに
紫匂う 朝がすみ
百重の山を めぐらして
人の和清く 展げゆく
平和の都 高山市
- 2 宮川の 瀬音清らかに さみどりの
柳をひたし ゆくところ
偲ぶにあまる 数々の
史蹟にかおる 世々のあと
歴史の都 高山市
- 3 城山の 花にもみじに 春秋の
祭も床し うまし郷土
今躍進の 意気あらた
文化産業 栄えゆく
希望の都 高山市

「高山市の歌」の成り立ち

この歌の歌詞は、戦後5年、昭和25年に文化協会によって募集され、全国から約200の応募があった中から奈良県の辰巳利郎さんの作品が選ばれました。
続いて、作曲の募集がされました。曲の審査は当時、グラントピアノがあった東小中学校で行われ、高山音楽連盟の長尾量平さんの作品が選ばれました。「高山市の歌」は、こうして誕生し、市内数カ所で発表演奏会が行われました。
そして、市制施行30周年にあたる昭和41年に、高山市の歌は市歌に制定されました。
制作から66年経過しても色褪せることのない「高山市の歌」。故郷の歌をいつまでも大切に歌い続け、次の世代に伝えましょう。

